

## 私の留学体験記

広島県立安芸府中高等学校 2年 浅原 董 (あさはらすみれ)

留学期間 令和5年2月25日 ~ 令和5年3月10日 (14日間)

留学先 Maryknoll School (ハワイ (都市名)、アメリカ (国・地域名))

私が安芸府中高校に入学した理由の一つである、ハワイ姉妹校交換留学。二回目となる海外への渡航経験は前回研修旅行で行ったカナダとはまったくの別物だった。

到着する直前まで英単語帳を開き、頭にそれを詰め込んでいた私は、不安でいっぱいの気持ちだった。ホストとの対面、明るい笑顔で私のことを迎え入れてくれて、不安が一気に楽しみに変わったことを今でも忘れない。私のホストの家はホノルルとは真反対のカハルウという所だったので、ホノルルにある姉妹校に行くまで一時間半ほどかかり、車の中でビーチを眺める時間は、私にとって至福の時間だった。そしてその道中で、沢山の場所に連れて行ってもらった。私が一番驚いたのは、食文化だった。ハワイには移民が多いため、様々な国の料理が多く存在していた。中でも日本食は、スパムすびというスパムとおむすびを掛けた言葉があるほど、根強く浸透していた。姉妹校に行って強く感じたのは、生徒や先生のハワイの歴史に対するプライドの強さだった。ハワイという場所が、どういう風にどのような形で出来たのか誰に聞いても説明できるほど、ハワイの歴史に誇りを持っていたのだ。学校の授業では、ハワイの伝統文化であるフラダンスを習い、私たちに恥ずかしがることもなく、それを披露してくれた。日本での生活において、自分たちの歴史に誇りを持っていると感じたことが今まで無かったので、とても恥ずかしく感じたし、今後誰に聞かれても答えられるように、日本の歴史について学ばないといけないと思った。しかし、これらの経験をするにあたって、言葉の壁にもぶつかった。現地の人が話す英語は、私たちが授業で聞く英語とはまったく違い、最初は全く聞き取れなかったし、会話についていくことも出来ず、話せなかった。なんとか自分の知っている単語と動作で伝えるも、部屋に戻って、何で出来ないのだろうと落ち込む毎日。そしてそれをホストに相談すると、「綺麗な正しい文法の英語を話す必要ない。あなたのペースで会話を楽しむための一つの道具だと思って話せばいいんだよ。」と、私が英語を学ぶ一番の理由に気づかされた。私は世界の色々な人と話したいという思いから、英語を学ぼうと思えるようになったのだと。初心を忘れていた私に、そのホストの言葉はとても響いた。それからは、自分の正しいとは言えない英語を恥じるのではなく、自信をもって話すことで、英語での会話を以前よりも特段に楽しむことが出来た。そして何より、こんな貴重な体験をさせてくれた両親、お世話になったホストファミリー、先生に感謝の気持ちでいっぱいだ。

